

ごみを減らそう!!

リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰式
ス・リユース・リサイクル推進協議会
経済産業省、国土交通省、農林水産省、財務省、厚生労働省、環境省、文部科学省



「3R推進功労者等表彰」東京都イイノホールでの表彰式。表彰状を受けとる会長。



自治記念式典で、功労者特別賞表彰を樹本市長より受ける会長。



「元気大賞」授賞記念写真。9月30日の三重県鳥羽市での授賞式には、山内会長代行が京都より駆けつけた。

CONTENTS

- ◆ 特集 1 _____ ②
目から鱗!? 一石三鳥の魚アラリサイクル
- ◆ 特集 2 _____ ④
キャンパスのごみ事情 いま大学で、ごみ減量進行中
- ◆ NEWS _____ ⑥
ごみ減量推進会議・10周年記念誌完成 ほか
- ◆ 行政からのお知らせ _____ ⑧
家庭用蛍光管拠点回収事業の実施について
- ◆ Report _____ ⑨
「京都市ごみ有料化シンポジウム10億円をどう使う?～」報告
- ◆ 会員探訪 _____ ⑩
社団法人 京都工業会
- ◆ Series 「やってます。わたしの住む町で、ごみ減らし」 _____ ⑪ ⑫
音羽地域ごみ減量推進会議（山科区）
上賀茂ごみ減量推進会議（北区）
淳風学区地域ごみ減量推進会議（下京区）
砂川地域ごみ減量推進会議（伏見区）

10周年を迎えた京都市ごみ減量推進会議に、相次いでうれしいニュースが飛び込んできた。まず、「3R推進功労者等表彰」。これはリデュース・リユース・リサイクル推進協議会により、3Rに貢献するグループ等を表彰するもの。そして、「京都市における市民・事業所・行政のパートナーシップによるごみ減量への取組」が先進事例として評価され、元気ネット主催「元気大賞2006」特別賞を受賞した。また、10月15日京都市自治記念式典にて、京都市ごみ減量推進会議会長が、環境保全功労者特別表彰を、理事・監事と10年継続会員がごみ減量推進特別感謝状を受賞した。これらの受賞は、京都市ごみ減量推進会議にとってなによりの励み。ともに手をとりあって、循環型社会形成に向かってゆこう!

目から鱗!?

一石二鳥の魚アラリサイクル

京都大学大学院 都市環境工学専攻 野村直史



中央市場、スーパー等から集められた魚アラ

魚は、日本の食卓には欠かせない食材。だが、その食されない部分である魚アラがリサイクルされているのをご存知だろうか？京都市では毎年70000〜80000トンの魚アラが集められ、養鶏の飼料に生まれ変わっている。今回は、この魚アラリサイクルについて紹介する。

混ぜればやっかいもの、
分ければ資源



魚アラは、魚の頭や骨、内臓など食べられない部分のことで、種類によっても違うが、魚体の30〜50%ほどを占める。つまり魚を食べると、それと同じくらい魚アラが発生していることになる。まさに目から鱗の事実といえそう。

この魚アラは水分が多く、一般廃棄物に混じると、効率的な焼却処理の障害になる。さらに、においの問題もあり、処理時に発生する悪臭をいかに取り除くのかも課題となる。しかし、魚アラはリサイクルすれば、鶏をはじめとする家畜の飼料や養殖魚のエサ、畑の肥料などに利用できる。つまり、魚アラのリサイクルはごみ処理の効率化、ごみの減量、さらに資源としての利用と、まさに一石二鳥の取り組みなのだ。

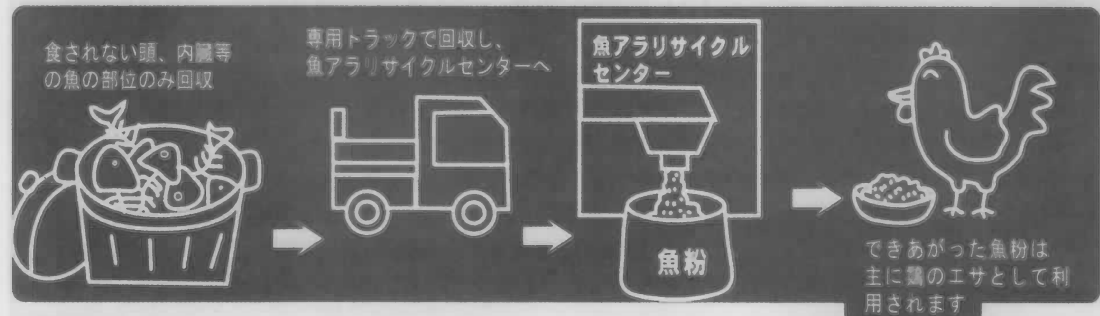
再び注目される昔ながらの知恵

魚アラは、昔から利用され、特に終戦後には飼料・肥料の原料として重宝され、商品として取引されていた。しかし、公害対策が進む中、悪臭対策に相当の費用が必要になったことや、80年代からの円高や食肉の輸入自由化の影響で、魚アラリサイクルは徐々に事業として成り立ちにくくなった。こうして、一

旦は苦境に追いやられた魚アラリサイクルだが、食品リサイクル法の施行や、BSE（牛海綿状脳症）、いわゆる狂牛病の問題によって肉骨粉を使った飼料が使えなくなったこと、さらに世界的な漁獲量の頭打ちと魚食ブームによってさらなる魚の有効利用が求められるようになったことなどを背景に、今、再び注目を集めている。

京都魚アラリサイクルセンター

横大路にある京都魚アラリサイクルセンターは、京都の魚アラリサイクルの中心地だ。魚アラリサイクルに取り組んでいた業者の工場が母体となつて、平成8年から京都魚アラリサイクルセンターとして運営されている。市内の事業者から回収された魚アラは、においや血水が漏れない密閉式のコンテナを搭載した専用トラックでこのリサイクルセンターに運ばれる。そして魚粉に加工され、その後、飼料メーカーでトウモロコシや大豆が加えられて養鶏用の飼料になるのである。ただし、京都魚アラリサイクルセンターは、現在、施設の老朽化と環境対策の充実のために建て替え計画中で、工事が終わるのは来年の3月（予定）。それまでの間、市内で集められた魚アラは岸和田市のリサイクル工場で処理してもらっている。

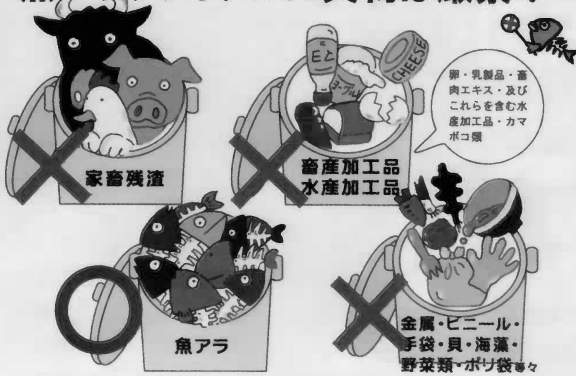


市内で発生した魚アラは、京都魚アラリサイクルセンターで加工され、最終的には主に鶏のエサとして利用される。そうして育った鶏が再び食卓に戻ってくるというサイクルがある。

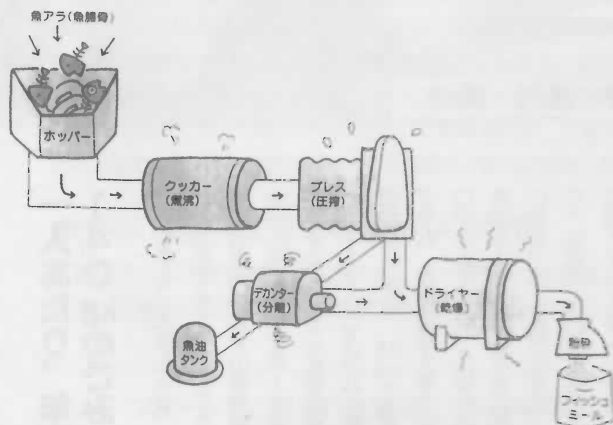
市民も参加、 京都の魚アラリサイクル

京都魚アラリサイクルセンターの運営を行っているのは、収集を行っている京都蛋白協同組合や、京都全魚類卸協同組合などの排出事業者、学識経験者、京都市、市民が参加して作られた京都魚アラリサイクル推進協議会だ。同協議会は魚アラ処理に関する調査研究や公害防止対策にも取り組んでおり、リサイクルセンターの建替えを期に、魚アラリサイクルをより良い形で進めていくための議論も活発に行われている。遠藤明子さんと大西啓子さんは市民として携われることはないかとの思いから、協議会が取り組んだ魚アラ処理の全国調査などにも参加した。また、京都大学大学院で学んでいる大西恒平さんは、京都市を事例に、都市部における魚アラリサイクルに関する研究に取り組んでいる。一石三鳥の魚アラリサイクルには様々な方面から

魚アラリサイクルに異物は厳禁！



魚アラリサイクルの際には、魚アラ以外のものが混じらないように注意が必要だ



京都魚アラリサイクルセンターに運ばれた魚アラは、ホッパーで砕かれた後、クッカーで煮る、プレスで搾る、の工程を経て、固形分と魚油、水分に分離される。固形分は魚粉に加工され、魚油はボイラー用燃料に利用される。老朽化と環境対策の充実のために、昨年の8月から施設運営を停止し、建替えを計画中。完成は来年の3月末予定。それまで、京都市で発生した魚アラは主に岸和田市の工場で処理される。

魚アラはまだまだ集められる！

の関心が寄せられており、産官学、そして市民が一つとなった取り組みが期待される。

現在、日本で発生している魚アラのうち、回収されているものは4分の1程度と推定されており、多くの魚アラはリサイクルされることなく捨てられている。一方、04年に日本で消費された61万トンの魚粉のうち、3分の2ほどは海外から輸入されたものである。単純に考えれば、回収さえ進めば、国内で発生する魚アラで、消費される魚粉はまかなえる計算になる。

平成17年度、京都市の中央市場やスーパー、鮮魚店に料理店などから回収された魚アラは7353トン。しかし、実際にはこの2〜3倍の魚アラが発生していると推定されている。実は、京都市は潜在的な魚アラの産地なのだ。こうした現状をなんとかしようと、昨

年12月、魚アラの回収に取り組んでいる京都蛋白協同組合は、魚アラリサイクルを呼びかけるパンフレットとラメッターを制作した。パンフレットでは、魚アラリサイクルの意義や排出の際の注意がわかりやすく紹介されている。

生まれ！混じりっ気なし、生粹の魚アラたち



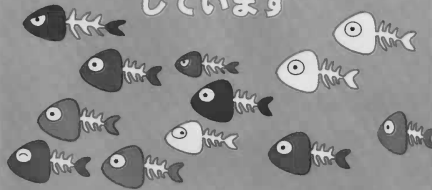
パンフレット等の表現で、強く注意を呼びかけるのは、魚アラ回収の際に魚アラ以外のものが混じらないようにすること。「徹底分別」は、リサイクルの鉄則だが、魚アラリサイクルでは、家畜の肉などの食品の混入を回避しなければならぬ。BSE問題により、ほ乳動物のタンパク質が混じっていると飼料としては使えない。製造された魚粉はDNAレベルで検査されるので、豚骨や鶏がらスープなど、ラーメンの汁が混じっていただけで

も、製品としては出荷できなくなる。魚アラに混じった家畜の肉類は、リサイクルセンターで取り除くことが困難なため、事業所で魚アラを出す際には十分な注意が必要だ。

京都が内陸の都市であるにもかかわらず魚を食することができるのは、鯖街道に代表されるように、魚を運んできてくれる人がいるからである。であれば、その魚の行く先にもしっかりと関心を払うことは、まさに都人のエチケットではないだろうか？リサイクルセンターの改修と共に、京都の魚アラリサイクルが一つの転機を迎えているこの時、魚を扱う事業者だけでなく、市民一人ひとりが関心を持つことで、魚アラリサイクルを盛り立てていきたい。

魚アラリサイクルに関する問い合わせは、
京都蛋白協同組合
Tel.075-602-4886(まで)。

私たちは 魚のアラを 有効に リサイクル しています



異物の排除にご理解とご協力を！

京都蛋白協同組合
京都魚アラリサイクル推進協議会
京都魚アラリサイクルセンター
京都市環境局

取材協力
京都蛋白協同組合 星山基安さん 浮村和雄さん
京都市ごみ減量推進会議 遠藤明子さん 大西啓子さん
京都大学大学院 地球環境学舎 大西恒平さん

キャンパスのごみ事情

いま大学で、 ごみ減量進行中

“学生の街”京都では、環境対策を考える上でも、大学や学生が重要なパートナーである。大学の中には、ごみ減量を含む環境対策に積極的に取り組むところもあるが、ほとんど動きのみられないところも多かった。しかし、「環境配慮促進法」により、国立大学は、05年度から、環境情報をとりまとめ、公開することが義務付けられた。京都では、京都大学も06年9月に、初となる環境報告書を公開した。これが、環境データの収集だけでなく、環境パフォーマンスや対策を評価するきっかけにもなっており、また、今後、他の私立大学等へも派生していくと考えられる。この転換期におけるキャンパスのごみ事情を追った。

京都大学環境保全センター 助手 浅利 美鈴

一人あたり、年間300〜
140kgのごみ！

そもそも、大学からは、いったいどれくらいのごみが出てきているのだろうか？そこで、手元にある京都市内の大学の環境報告書から、データを引っ張り出したのが表1である。これによると、京都大学におけるごみ発生量は、構成員一人当たり年間142キログラム（附属病院除く）、京都工芸繊維大学は、0.5m³で換算すると、114キログラム、京都精華大学では、一般ごみのみで26キログラムであり、この三大学では、一人当たり年間30〜140キログラムのごみを出していることになる。仮に原単位を50〜100キログラムとして、京都市内の学生数11万人をかけると、5千五百〜1万1千トンとなる。

キャンパスのごみは キャンパスライフの鏡

では、ごみの中身は、どのようなものだろうか？ここでは、京都大学を例に見ていく。

表2に示したのが、生活系産業廃棄物の発生量である。このなかで、事業系一般廃棄物としているのは大型ごみ等であり、普通産業廃棄物としていいるのはプラスチック類やガラス・陶磁器屑、金属屑、蛍光灯、電池等である。そのうち、プラスチック類は、05年度には約1200トンとなっており、かさにするご相当量を占めると考えられる。ここには、生活に関わるもの・・・例えば、弁当容器やお菓子の包装、レジ袋等も含まれると考えられる。

実験系／特別管理産業廃棄物は、教育研究機関である大学の特徴的なごみである。京都大学においては、「原点処理」及び「排出者責任」の基本原則により、適正管理・処理を進めている。

表1：大学のごみ発生量

	年度	構成員数(名)	発生量	原単位
京都大学(全体)	2005	33,636	6,161 t	183 kg/人
京都大学(病院)	2005	2,131	1,680 t	788 kg/人
京都大学(病院以外)	2005	31,505	4,481 t	142 kg/人
京都工芸繊維大学	2004-2005	4,850	1,110 m ³	0.23 m ³ /人
京都精華大学	2004	4,025	103 t	26 kg/人

学部学生総数 (H17)	110,270
大学院学生総数 (H17)	1,451
計	111,721
30kg/人	3,352 ton
100kg/人	11,172 ton

※各大学の環境報告書より(ただし、京都工芸繊維大学は、別途汚泥300kg発生/京都精華大学は、一般ごみのみとのこと) 2005年5月現在

表2：廃棄物排出量

対象部局	全学		2002	2003	2004	2005
基本データ		単位				
	のべ面積	m ²	856,459	920,009	953,542	993,788
	のべ人員	人	33,217	33,872	33,872	33,636
生活系廃棄物 排出量		単位	2002	2003	2004	2005
	紙	t	1,110	1,261	1,228	1,407
	事業系一般廃棄物	t	1,048	1,309	1,284	1,823
	普通産業廃棄物	t	1,726	2,126	1,989	2,126
	小計	t	3,884	4,696	4,501	5,356
単位面積あたり廃棄物排出量	kg/m ²	4.53	5.10	4.72	5.39	
一人あたり廃棄物排出量	kg/人	117	141	133	159	
再資源化率	%	40	56	35	28	



桂キャンパス開校から間もない頃に実施したごみ調査の様子。まだ食事環境も整っておらず、弁当箱が大量に集まった。

独自の方法でリサイクルを実施する大学も

ごみの分別・リサイクルは、大学間だけでなく、大学内においても取り組みレベルや温度差が大きい。ISO14001認証も取得し、先進的に環境取り組みを実践している京都精華大学及び京都工芸繊維大学では、それぞれ独自の分別品目・ルールを設定し、全学的に分別・リサイクルを推し進めている。一方、京都大学においては、統一された分別基準やリサイクル指針等はなく、ようやく検討が始められたところである。



京大大学生協の分別回収BOX。大学生協の取り組みは、大学を数歩リード

今後注目したい！ キャンパスごみの減量化

大学におけるごみ発生量の現状について、簡単に報告した。大学によっては先進的な取り組みが見られるもの、また多くの大学では、ごみ減量化、分別・リサイクルの取り組みは緒に付いたばかりである。今後、キャンパスごみ調査の実施、分別・リサイクルの推進、3R意識の普及等が求められる。

～学園祭におけるごみ減へのチャレンジ～

06年秋はリユース・リサイクルをさらに進化させて

京都大学総合人間学部 3 回生 根本潤哉

京都大学11月祭環境対策委員会（以降、当会）は、学園祭（以降NF）の環境負荷削減や環境啓発を目的として、1994年度から活動しています。

◆ごみ回収システムの運営・リサイクルシステムの構築

例年、約7トンのごみがNF期間中に出されています。来場者が捨てる会場内のごみも、調理の際発生した模擬店の店内ごみも、基本的に模擬店が責任を持って分別します。この点は大きな特徴です。06年度は、会場内のごみは、①紙ごみ・ビニール・その他、②缶・びん、③ペットボトル、④発泡スチロールトレイ、⑤割り箸、⑥生ごみの6分別で行いました。集めたごみのうち紙ごみ・ビニール・その他は焼却処分されますが、それ以外はリサイクルに回されます。

◆洗い皿企画

何度も洗って使うことができる洗い皿（リユース皿）を模擬店に使ってもらい、使い捨て容器使用の削減を図る企画にも力を入れています。洗い皿利用店に対するメリットを工夫して、立て看板等で、洗い皿利用店の広報をしたりしています。

◆来場者や模擬店への環境啓発

立て看板で広報したり、模擬店に対しNF当日に行ってもらおう作業をまとめた冊子を配布したりして、来場者や模擬店へ理解を求めることも重要です。ごみ回収システムを適切に運営するには、排出者の理解が不可欠だからです。

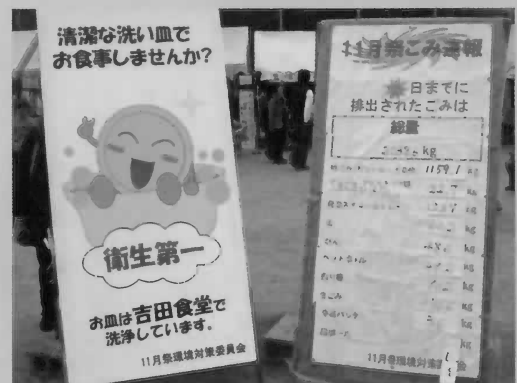
そのほか、様々な活動を行っていますが、NFでの環境負荷を削減することはなかなか難しいことです。リサイクルからより上流の対策であるリユース、リデュースへとどのようにして移行していくかが課題と言えるでしょう。



NF特設の分別BOX



集められたごみの山



啓発のための看板では、ごみ発生量速報も！

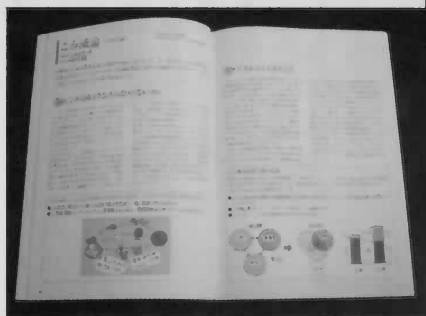
ごみ減量推進会議 10周年記念誌完成

市民・企業・行政の協働でごみを減らそうと、96年発足した京都市ごみ減量推進会議は、活動実績を重ね、06年秋10年目を迎えた。記念式典開催に続き、このほど「手をとって、ごみを減らそう」のタイトルを掲げた10周年記念誌が完成。10周年を祝し、樹本京都市長からの祝辞のほか、記念式典での高月会長の講演が、マンガとともに4頁にわたって紹介されている。また、過去の活動実績や現在のごみ減量推進会議の組織や取組なども盛り込まれ、ずしり充実した内容だ。ページをめくり足跡をたどると、今後の方向性が見えてくるようだ。



記念誌はA4サイズ・31頁。表紙はハイムーン氏のイラスト。

10周年記念誌をご希望の方は
事務局へお申し出ください。



会長の「ごみ減論」なども織り込まれた記念誌

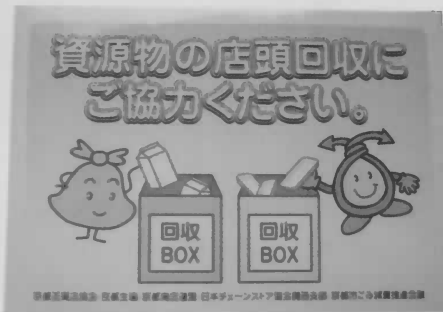
アンケートやクイズや ステッカーなどで買い物袋持参や 簡易包装を呼びかけ

マイバッグ持参は、だれでもすぐにできる環境保全活動のひとつ。京都市ごみ減量推進会議では、96年以降買い物袋持参・簡易包装推進キャンペーンを、市民・企業・行政の協働で実施してきた。

06年は9月13日午後、カナート洛北店（左京区）にて実施。ごみ減量に関するアンケートを行い、協力した約260名に景品として、ハローキティマーク入りの布製袋とイズミヤ製の袋を進呈した。また資源物回収のステッカーをを参加団体に配布し、分別の徹底を呼びかけた。



カナート洛北でアンケートを実施



市役所前フリーマ1000回記念に サンタたちが街のごみ清掃

99年にスタートした市役所前フリーマが1000回目を迎えた、その日はクリスマススイブとあって、当初から運営にあたってきたプラスワンネットワークでは、フリーマーケットに加えて、サンタの服をまとって市役所周辺のごみを拾おうと企画を練った。当日、フリーマには150ブースが参加。午後2時から1時間の周辺の清掃には、サンタ服をまとった人や私服での参加者も含め、およそ1000人が清掃に繰り出した。家族連れなどの参加が多く、「楽しみながら、環境にいいことができた」との声が寄せられた。

集まったごみは、30リットル入り10袋。周辺の事業者と市民、行政による活動への共感が高く「今年もぜひ」との要望が届いているという。



菜の花プロジェクトなど市民から手の届いた6事業を支援

平成18年度から始まった市民公募型パートナーシップ事業は、9月に審査委員会が開かれ、6事業への支援が決まった。それぞれに18年度内に事業が行われる。

■菜の花「夢」プロジェクト

NPO法人資源循環型社会推進機構 都市部における菜の花栽培による「使用済みてんぷら油の市民回収」PR

■小企業・商店街向け

環境教育プロジェクト
びっくりエコ100選2007実行委員会 2月19日 京エコロジーセンター

ーにて

■家庭から出るやっかいなごみの適正処理をめざして

NPO法人コンシューマーズ京都 蛍光灯等をはじめ、スプレー缶などのごみを追加調査し、情報集約し提言をまとめる。

■生ごみリサイクルと地域

コミュニティ推進事業と社会実験事業
梅津まちづくり委員会
家庭から出る生ごみの堆肥化の講習や報告

■大学園祭における

リユース食器全面導入体制確立
NPO法人地球環境デザイン研究所
使い捨て容器を使わないリユース食器を導入した学園祭の実施など。

■祇園祭におけるごみ削減を目的とした活動及び分別回収と組織・状況調査

京都環境アクションネットワーク
祇園祭におけるごみ減量を目的に祭りのごみ組成などを調査。

生ごみリサイクルなど施設見学会へ

06年10月、京都市でのごみの有料化に伴い、家庭でできるごみ減量策が急がれる中、生ごみリサイクルは市からのサポートもあり、市民からの関心が寄せられている。そんな流れを受け、京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会と地域ごみ減量推進会議の会員43名は、06年12月19日家庭でできる生ごみ循環エコロジーシステムを実践する「水口テクノス」(滋賀県甲賀市水口町)を訪れた。引き続き、オフィス古紙から再生が難しいとされる紙管などのリサイクルも手がける黒田紙業にも立ち

寄り、再生の現場を視察した。

また、07年1月29日は菜の花によるバイオディーゼル燃料(BDF)の取組で知られるあいとうエコプラザ(滋賀県愛東町)を見学。菜の花栽培に始まる、市民・行政・事業者の協働による循環システムについて学んだ。この日の参加は33名。「他都市の油のリサイクルについて学習できてよかった」などの感想が寄せられた。



水口テクノスにて

産廃Gメン、石渡氏を迎え ごみ減量実践講座を開催

18年度3回目となるごみ減量実践講座(京都市ごみ減量推進会議・京都商工会議所・京エコロジーセンター共催)のテーマは、「産廃問題を斬る」と題し、石渡正佳氏を千葉県より迎え12月1日行われた。地元の企業をはじめ行政関係者など54名が参加し、氏の事実に裏打ちされた話に熱心に耳を傾けた。



めぐるくん推進友の会、 各地域でごみ減量啓発活動

京都市内の様々な地域で開かれる環境催しに尽力している、京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会。各行政区で行われるふれあいまつりをはじめ、多彩に活動中だ。最近では、地域ごみ減への出前教室としてせっけん教室にも取り組み、9月輪小学校で、12月は六原地域ごみ減量推進会議とせっけんづくり教室を開いた。12月22日・23日の2日間は、こどもみらい館で開催された「みらいっこまつり」にも協力し子ども向けにはクイズ、大人向けにはアンケートを実施し、缶バッチづくりを行った。

行政からのお知らせ

家庭用蛍光灯拠点回収事業の実施について ～家庭ごみ有料指定袋制に係る手数料収入の有効活用策～

使用済み蛍光灯は、微量ながら水銀が含まれているほか、ごみ収集車に積み込む際に割れやすいなど、適正な処理が難しい廃棄物のひとつです。このような製品は、本来、生産者が小売店等を通じて回収・処理することが基本ですが、これまで、その回収経路が確立されていませんでした。

そこで京都市では、市内の電器店等の協力を得て、買い換えの際に小売店舗で使用済み蛍光灯を回収し、資源ごみとして有効活用する仕組みを新たに構築しましたのでご利用ください。

回収するもの

(1) 直管蛍光灯



(2) 環形蛍光灯



(3) 電球型蛍光灯



※白熱電球は回収していません。

※いずれにしても、家庭で使用されたものが対象。割れたものや買い換え以外の場合は「家庭ごみ」として出してください。
※事業者から排出される蛍光灯は対象外です。

回収方法

(1)

家庭用の蛍光灯を購入する際、「蛍光灯回収協力店」という黄色いステッカーの貼ってある店舗に持参（無料回収）



※蛍光灯回収協力店一覧は・各区役所支所・出張所及びまち美化事務所に配架してあります。

※お近くに回収協力店がない場合は、従来どおり家庭ごみとして出してください。

(2)

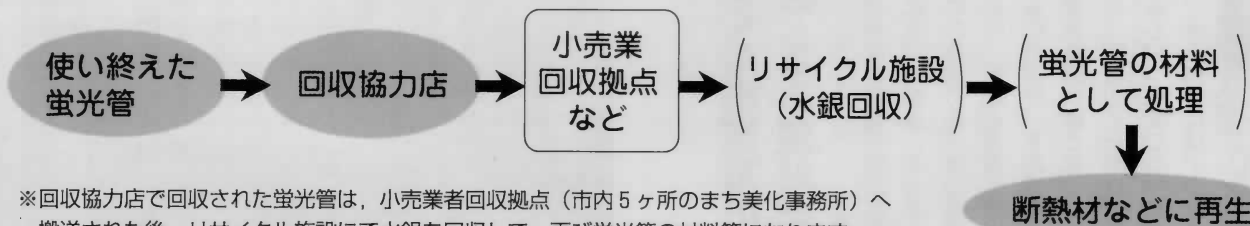
指定日に右記のまち美化事務所へ持参

※回収の時間帯は、それぞれ午後1時45分から午後4時まで

回収拠点	回収日
上京まち美化事務所	毎月第4週の金曜日
左京まち美化事務所	毎月第4週の月曜日
山科まち美化事務所	毎月第4週の火曜日
下京まち美化事務所	毎月第4週の木曜日
南まち美化事務所	毎月第4週の水曜日



リサイクル



※回収協力店で回収された蛍光灯は、小売業者回収拠点（市内5ヶ所のまち美化事務所）へ搬送された後、リサイクル施設にて水銀を回収して、再び蛍光灯の材料等になります。また、回収したガラスは、断熱材（グラスウール）等として使用されます。

問い合わせ先

環境局循環型社会推進部循環企画課 TEL 075-222-3460 FAX 075-213-0453

「京都市ごみ有料化シンポジウム ～10億円をどう使う?～」報告

06年9月24日午後開催 NPO法人 環境安全センター

◆有料化を機に、ごみ施策への関心を高めたい

ごみの有料化は、市民には負担だが、ごみの問題を考える絶好の機会でもある。京都市では2006年10月から、ごみ・資源ごみ収集において有料指定袋制度が導入された。手数料は、毎年10億円ほど推計され、ごみ減量やリサイクル推進に利用するという、新提案もされている。NPO法人環境安全センターでは、手数料はどう使うべきかを考え、ごみ施策への関心を高めようと、有料化に先立ってシンポジウムを開催、50名が参加した。

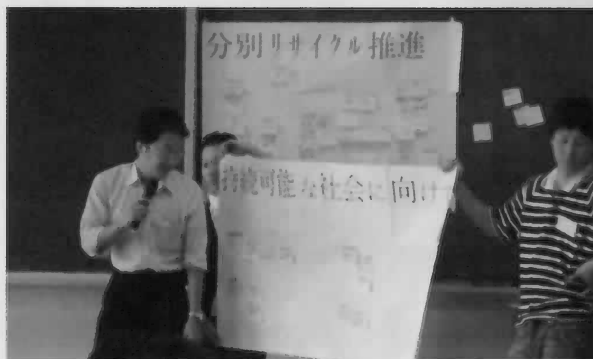
まず、京都市の瀬川道信氏（環境局循環型社会推進部循環企画課長）から、ごみ減量や地球温暖化防止などを視野に、有料化提案への経緯・趣旨について報告。質疑応答では、ごみ収集・処理事業にかかわる基本的な質問をはじめ、有料化は時期尚早との市民の意見、有料化の目的に対する疑問も出された。この背景には、京都市の一連の不祥事などに起因する不信や、事前の説明不足などがあったようだ。

◆多彩な意見を8つのテーマで整理

続いて、10億円の使い道に関して、テーマワークを実施。参加者には、付箋紙に自由に意見を書いてもらい、8つのテーマごとに整理

した。市民・事業者・京都市が取り組むべき様々なアイデアが出された（図参照）。

コメンテーターの山川肇氏（京都府立大学講師）は、「ごみ有料化は、一定の減量効果がある。ごみを多く出す人、あまり出さない人との負担の公平性からも有料化が有効」と述べ、また、「有料化をきっかけに多くの市民がごみ問題に関心をもち議論できることがもう一つの意義ではないか」と発言。私たちが市民として、ごみに関する議論を重ね、多くの意見をまとめることが課題と考えた。



図：8つのテーマと出された意見 「生ごみ処理」、「分別・リサイクル」、「有害物」、「不法投棄」、「事業者との協力」、「市民の参加・協力」、「持続可能な社会に向けて」、「その他」

【京都市】

まちづくり

観光地／分別などごみ回収強化
福祉／社会的弱者の手数料無料化
交通／CO2の削減

税・手数料の見直し

負担の公平性
手数料無料化

生ごみ堆肥化の促進

コンポストの普及
農業指導
堆肥利用先の確保
共同農園・協働コンポストの設置
公園や街路での利用
家庭と農家とのシステムづくり
飼料化

回収制度

野菜・プラ容器の再利用
店頭での有害物回収

インセンティブ付与

不法投棄通報者に謝礼金
生ごみを出さない家庭に謝礼金
生ごみ堆肥買い取り補助金

リサイクルの機会

衣服リサイクル促進会の開催や
ルート開発

【市民】

市民への教育

環境学習（人員・施設の充実、休日・夜間など機会の拡大）
施設見学
障害者・外国人・マンション住人への啓発
節約する生活習慣
教師への研修
コーディネーターの育成

ごみ処理サービスの見直し

分別／分別の細分化と徹底
収集・回収／ステーションの適正設置
有害物システム提案
資源や生ごみへのシステム提案
バックカー車の導入と改良
処理方法の改良

行政・市民・事業者で話し合える場を作る

家庭に有害物・危険物を入れない
燃料電池の利用

その他

ごみ袋記名制
住民の集団での分別によるコミュニティへの布石
行政を監視
不祥事・手数料収入の使途を市民が確認
（公認会計士等による）

レジ袋の削減

マイバッグの普及
ノーレジ袋の特典アップ

情報提供

法律への情報提供
ごみ減量達成目標と状況の報告
相談窓口の設置
情報公開の徹底
ステーションマップの作成と配布

実態把握

民間古紙回収の状況把握
ごみ減量の実態把握
処理費用のベンチマーク
不適正処理の実態把握

リサイクルの拡充

生ごみの燃料化
給食食材のリサイクル

インセンティブの付与

リサイクル容器使用への補助金・報奨金
ごみ減量対策製品開発への報奨金

事業者への指導・要請

産業界への不法投棄対策
未回収の危険物を扱う販売店への指導

【事業者】

開発・生産段階の対策

有害性を低減する商品の共同開発
リユースPET入りお茶の開発
製品等のLCA

生産者の責任

CSR、情報公開・環境
マネジメントの推進

※意見は主要なものを集約しており、すべては示されていません。

会員探訪

社団法人 京都工業会

所在地：〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2番地

TEL：075-313-0751 FAX：075-313-0755

URL：http://www.kyokogyo.or.jp/

設立：1957（昭和32）年12月

会長：矢嶋英敏

会員数：262（単独会員 230社、団体会員 6団体（所属企業総数340社）、賛助会員 26社）（平成18年3月末現在）

事業内容：会員交流、人材育成、産学交流、国際化対応、中堅・中小企業の振興、環境保護、広報・サービス、特別事業（行政や地元経済団体と共催で、各種イベントを開催）

市民団体、事業者、各種事業者団体、専門家など、多彩な顔ぶれで構成される京都市ごみ減量推進会議。今回は、社団法人 京都工業会の活動を取材しました。

取材者：大津嘉高 京都大学人間環境学部修士1回生

社団法人 京都工業会

貴会は京都の工業文化の育ての親ですね？

AQ 本会は京都府で事業を営む、多数の大手メーカー・中小企業による会員で構成され、設立以来、企業人同士や地域に密着した交流活動、会員企業の経営力向上、人材育成、技術向上等を中心に事業を行い、地元京都の製造業の振興と地域産業の発展に努力してきました。

会員の方に向けた事業展開を教えてください

AQ 7つの委員会にて企画、審議し事業を展開。産業界の課題や将来動向を担うのは企画委員会、他に、技術・教育委員会、総務委員会、中堅企業委員会、中小企業委員会、環境委員会、広報委員会があります。特に今年度は設立50周年を迎え、記念事業を検討中です。クラブ活動や国内外の視察、政治・経済・社会情勢を得る講座も開いています。充実したカリキュラムによる人材育成事業、産学交流事業による製品開発支援、海外への業務拡大を狙った産業視察も行っています。

環境事業についてお聞かせください

AQ 会員企業の環境関係業務に携わる委員による環境委員会を設け、事業を展開しています。京都府・京都市からの要請を受けることもあります。



京都工業会館外観

具体的には、KES（環境マネジメントシステムスタンダード）の推進、京都環境管理研究会、関西環境管理者交流会、労働安全衛生研究懇話会、省エネ環境関連施設見学会、ISO14001及びKESの内部環境監査員養成講座等があります。

京都環境管理研究会では、定例会で環境マネジメント運営の諸問題を事例紹介し、ディスカッションを重ね、見学会や講演会を開いています。

なかでも環境マネジメント認証登録を取得した組織では定期的に内部監査が義務づけられています。これを行う内部監査員養成に注目していただきたいと思います。外部講師も招いて養成講座を開き、資格取得を支援しています。月1回の講座の受講者は20、30名、遠方からの受講者もあり年間300名ほどが資格取得という実績を残しています。

高い人材育成貢献度。その成功の秘訣は？

AQ 内部監査員養成については受講費用の負担が軽いことが、大きな要因でしょう。受講費は、ISO14001内部監査員の資格取得に要する費用の半分以下。企業実務経験者のご厚意で講師をしていただき、また講座内容も充実しています。ベテランのCEAR登録審査員も講師を務め、受講者には2日間で講義と現場での監査を想定した演習などを履修してもらいます。テストの合格者には修了証書を発行しています。

KES認証事業について

AQ KESの生みの親は本会の環境委員会です。現在は「京のアジェンダ21フォーラム」のKES認証事業部が、登録認証の業務を行っており、事務局は本館の2階にあります。費用負担も軽く、取り組みやすさが特徴で京都市内外の中小企業を中心に登録数を伸ばし、現在全国で1343の事業所が取得しています（06年12月末集計）。

事業部では相談から登録まで、コンサルティング等を通してシステムを構築を手助けし、取得後は従業員への環境教育などの支援もしています。KESを取得し、エネルギー削減に取り組み、年間3476トンのCO2が削減されたという報告が届くなど、生みの親としては誇らしい限りです。

今後の一番大きなテーマとなるのは？

AQ CSR（企業の社会的責任）です。CSRについては、現在ISOではガイドラインを審議中です。CSRの勉強や認識を高める事から始め、企業として或いは事業者団体としてどう取り組みめばよいのかを検討して行きたい。先行する大企業での取り組み事例に学び、それに基づいて展開を検討していく事が大切かと考えています。



京都大学桂キャンパス大気・海洋シミュレーション水槽見学の様子 HPより



取材に応じて下さった業務推進役 谷口正克さん

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

（自らの手で周囲の環境を守りたいと積極的にごみ問題にも取り組む）
上賀茂ごみ減量推進会議（北区）

北は上賀茂神社、南は府立植物園という恵まれた環境にある上賀茂地区。保健協議会のメンバーを中心に、使用済みてんぷら油の回収を始めたのは6年前。「最初の回収量はごくわずかなものだった」と当初から活動に携わる福永五郎さんは振り返るが、活動が定着した現在、近所の飲食店からは一斗缶が運ばれることも。また、4カ所ある回収拠点のうち、2カ所を人の多く集まるスーパーに設けている。回収日当日には、買い物客に呼びかけを行うことで回収量も伸びてきた。もっと拠点を増やしてほしい、という声も寄せられているが、難しいのは「人員の確保」と福永さんは語る。

同会ではこの他に、年3回、独自にごみの不法投棄防止の見回りを行っている。最近問題となっているのが、週2回の一般ごみの出し方のマナーの悪さや、引越しの際の大型ごみの不法投棄。なかなか改善されないながら、近所の人も交えて対策を練っているところだという。さらに、春と秋の年2回、自治連合会と共同で清掃作業を実施。上賀茂神社と深泥池周辺のごみ拾いを重点的に行うこの清掃も、地域住民の協力が不可欠だ。

いずれも「周囲の環境を自分たちの手で守りたい」という強い思いが活動の源にある。上賀茂の緑豊かな環境が、人々のこうした意識を育てているのかもしれない。

福永五郎さん、妻代子さんと夫妻



- ◆会長：恵藤弘
- ◆発足：2000年（平成12年）11月
- ◆学区世帯数：約5200世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収：拠点は4カ所、毎月第4土曜日、午前11時～12時 福永さんのご自宅前では、同時に使用済み乾電池も回収している



乾電池も同時に回収

取材：佐藤明子

（ありがとう！声を響かせて回収学区全体での実施を目指す）
音羽地域ごみ減量推進会議（山科区）

半年間の準備期間を設け、使用済みてんぷら油の回収を始めたのは2005年4月のこと。他の学区での取り組みを知り、婦人会役員とPTA役員を中心に、自治連合会の応援を得て始動した。「回収は時代の流れ」と語る酒井孝順会長は、毎月油を持参するというご近所の方々との挨拶をかわす。「今日もありがとう」、「お天気でよかったですね」…。音羽学区は、実は滋賀県と境を接しており、回収拠点も「数軒先は滋賀」というところにあった。隣県では使用済みてんぷら油の回収を実施していないことから、同会のこうした活動を知り、道すがら油を置いていく県民もいるという。

今後の目標は「学区全体での実施」だが、地理的条件がその実現を難しくしている。小金塚という約2000世帯の団地は、学区の中心からやや離れた、いわば飛び地のような小高い場所に位置し、回収拠点をいまだ設けられていない。そうした現状もあり、同会では各地区の小学校に拠点を常設することを検討、現在学校側と協議中なのだそう。PTA集会の折にでも持ってきてもらえたら、回収量が増えるのではないかと酒井会長は期待している。

「これからはリユースびんや蛍光灯の回収も行っていきたい」と意欲的な同会。またひとつ、地域から潮流が生まれようとしている。



- ◆会長：酒井孝順
- ◆発足：2005年（平成17年）4月
- ◆学区世帯数：約3800世帯
- ◆使用済みてんぷら油の回収：拠点は4カ所、毎月第4金曜日、12時～13時



取材：佐藤明子

「やっています。わたしの住む町で、ごみ減らし」

女性会で培った組織力を基盤に 体制もがっちり、14拠点で回収

砂川地域ごみ減量推進会議（伏見区）

立ち上げは5年前。古紙回収などの環境活動を重ねてきた砂川地域女性会は自治会に協力を呼びかけ、14カ所を拠点に使用済みてんぷら油の回収をスタートさせる。月1回の回収日に総勢約40名が協体制を組むのは女性会ならではの。初めの頃は天ぷらカスや水が混ざることもあったが、今では地域に浸透し「ラクになった」と市原副会長。ポリタンクと旗の保管場所がなく困っていたが、砂川自治会館前の拠点では、館内に確保し、その他は役員さんの厚意で自宅に持ち帰ることで解決した。軒先が広く、雨に濡れる心配のない役員さん宅の前には、いつ持参されても対応できるよう24時間ポリタンクを設置している。時には、協力したくともできない独居老人のお宅を訪ね、びんや缶にたまったてんぷら油を回収するというきめ細やかな動きも。05年9月には、NHKテレビ取材を受け、京都市バイオディーゼル燃料化の広報にも一役買った。

今後は「環境学習のため見学会を行いたいが、バス代が負担で…」と山口幸子会長。04年秋は音羽の森・エコランド、

05年は京都市廃食用油燃料化施設を視察した。10月からのごみ有料化に伴い、回収量が増えたとしても対応可能な体制を持つ。役員の方々の明るい表情に希望が見えた。



天かすが入らないよう、既製の網に工夫を加えて使用する



山口幸子会長（右上）、磯谷さん（右下）、市原民子副会長（左下）、浜野さん（左上）

- ◆会長：山口幸子
- ◆学区世帯数：7000世帯
- ◆発足：2001年（平成13年）4月
- ◆使用済みてんぷら油の回収：毎月第1月曜、午前中
- ◆回収拠点は14カ所※回収時間は、拠点によって異なる

取材：森田知都子

手作りポスターにひと工夫 倉庫も確保し地域に浸透させた

淳風学区地域ごみ減量推進会議（下京区）

淳風学区の連合会長が市議員であったこともあって、使用済みてんぷら油回収の広がり刺激を受け、「淳風学区でも回収をしよう！」と、平成11年開始した。当初は、ポリタンクなどの回収道具の保管場所に頭をひねった。しかし会長が苦労を重ねた上、保管しておく倉庫を購入、自治会館内に設置することができたため、少しは負担が軽くなったという。回収場所は人通りも多く、交通の便の良いところであるため、淳風学区以外からの持参も多い。回収場所が1カ所にもかかわらず、多いときはポリタンク3個くらいの量に達することもあったという。

現在は、回収日は保健協議会の方4名が担当されている。持参された容器からポリ容器へ油を移し入れる手つきも慣れたものだ。使用済みてんぷら油の回収を、広げようと会長の手作りポスターにひと工夫。その月の回収日をお知らせするだけでなく、次回の回収日時告知や前回の回収量の報告も記載する。ポスターは地域の20軒のお宅の軒先に掲示、その効果もあってか、学区内ではかなり浸透しているという。

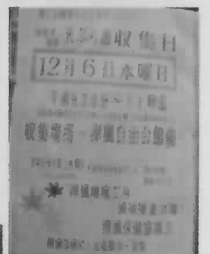
目下の悩みは、雨や雪の日の回収。以前はテントを張ったりしていたが、持参する人が極端に少ない。最近では小雨のみ決行している。今後は「女性会も巻き込んでいきたい」と、前向きな姿勢を見せている。

- ◆会長 芝藤陸雄
- ◆学区世帯 約1200世帯
- ◆発足 平成11年7月
- ◆回収場所 1カ所（淳風自治会館前）

取材：田中真砂世



取材日は芝藤会長、山下さん、小野寺さんの3人で



芝藤会長手作りの回収板



倉庫の中には回収道具一式が収納されている。

京都市ごみ減量推進会議会報誌 ごみを減らそう！No.33

発行：京都市ごみ減量推進会議事務局 2007年（平成19年）3月発行
〒604-8571 京都市中京区寺町御池
京都市環境局 循環型社会推進部 循環企画課
TEL. 075-257-5053 FAX. 075-213-0453
京エコロジーセンター活動支援室 TEL&FAX 075-647-3444
E-mail gomigen@mbox.kyoto-inet.or.jp
URL http://web.kyoto-inet.or.jp/org/gomigen/index.html

企画編集：京都市ごみ減量推進会議 普及啓発実行委員会（会報誌・ホームページ）
浅利 美鈴・植村 章弘・梅影 真生・大橋 正明・小野 貴志・佐藤 明子・
野村 直史・森田 知都子
事務局：西田 祐子・田中 真砂世

【入会のご案内】

京都市ごみ減量推進会議は、京都市のごみを減らし、環境を大切にしまちと暮らしの実現に寄与することを目的として、市民、事業者、行政により1996年11月に設立した団体です。パートナーシップで多彩な活動を展開中。京都市ごみ減量推進会議では、ともに活動する会員を募っています。

【会費】

市民（市民団体・消費者団体・環境団体等）	） 1口1千円 （年間1口以上）
専門家（学識経験者等）	
地域ごみ減量推進会議	
大学・マスメディア・事業者団体 企業等・行政	） 1口1千円 （年間2口以上）

詳細は、事務局へお問い合わせください。